

あった。金の力によって選手は球団間を渡り歩き、時には球団自体も売り買いされる。市場原理は、当然MLBにも当てはまるのである。

Market Economy

プロスポーツ選手にとって、獲得した賃金の額面は自分への評価そのものであり、人々に夢を与えることにもなる。2002年、まさにアメリカンドリームをかなえたアレックス・ロドリゲス（テキサスレンジャーズ）の年俸は、約33億円である。

選手だけでなく、球場でホットドッグやビールを売り始めて大富豪となった企業家もいれば、投手をしていた経験から、ピーナッツを客に向かって正確に投げ売りし、人気と金を得た売り子もいた。



【Please Don't Strike】

サンフランシスコのパシフィックベルパーク、シアトルのセーフフィールドなど、球場に企業名を冠して広告料を得る球団もある。今やテレビ放映権料は球団にとって大きな収入源である。それゆえ、多くのアメリカ人が心ときめかせる大イベントである「ワールドシリーズ*7」では、イニング間の時間が長い。テレビのCMが終わるのを待っているのである。

世界大戦中でさえ行われたワールドシリーズが、1994年に中止された。原因はストライキである。アメリカ人のストライキ好きは、何も野球に限ったことではない。今回の研修旅行中にも、サンフランシスコでホテル従業員のストライキに出くわした。年がら年中、誰かしらストライキを執行し、賃金アップと待遇改善を求め、闘いながら社会の秩序と制度を整えていくのがアメリカ社会なのである。

[2001年9月11日] 戦争中であっても行われ続けたMLBが、一時中断した。原因はアメリカ中枢をねらったテロ事件である。

God Bless America

テロ事件後、野球の存在価値はひととき目立った。2001年のMLBは、ボンズが更新したシーズン通算最多本塁打、シアトル・マリナーズが打ち立てた最多勝利歴代タイ記録などにより、米国人の心の傷を少しは癒すことができた。試合内容と勝敗を離れ、プロ野球はアメリカ人の誇りを鼓吹し、国民的団結を図るうえで大きく貢献したと思われる。

今回の研修旅行中においても、いくつかの球場で、試合前や7回の攻守交代の時に「ゴッド・ブレス・アメリカ」が響き渡った。移民、多民族の国であるアメリカ合衆国は、民族性や伝統とは異なるアメリカ人としての共通のアイデンティティを求め続け、それぞれの時代に何とか共通の夢を紡ぎ出してきた。MLBはアメリカ合衆国国民にとって、いつの時代も共通の夢なのである。

世界貿易センターに掲揚されていて所々痛んでいる星条旗を、ヤンキーススタジアムに移して進められた2001年のワールドシリーズ第3戦に、ブッシュ大統領が直接登板した姿は、まさに米国の健在と意志を知らしめる国家的儀式であった。